

国語科学習指導案

尾道市立栗原北小学校 大名 克英

1 日時・場所 平成24年3月14日（水）14：55～15：25 広島県立教育センター

2 学 年 第3学年

3 単 元 名 書こうとすることの中心を明確にした文章を書こう
～分かったことや思ったことを学級の友達に報告しよう～

4 単元について

○ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語（平成20年）の第3学年及び第4学年「B書くこと」における指導事項「ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。」を受けて設定する。本単元では、書こうとする事柄の中心となる段落と原因や理由、事例などを挙げる段落との関わりについて注意して記述できるようにすることをねらうものである。

本単元では、おじいちゃんやおばあちゃんが小学生だったころの学校や遊びの様子、おやつを調べて分かったことや思ったことを文章に書くという学習を行う。本単元で書いた文章の、書こうとする事柄の中心となる段落には、調べる活動を通して分かったことや思ったことが述べられ、原因や理由、事例を挙げる段落には、おじいちゃんやおばあちゃんに取材したり本などで調べたりしたことが述べられる。取り扱う題材が、児童にとって身近なものであることから、先に述べた、書こうとする事柄の中心となる段落の内容と原因や理由、事例などを挙げる段落の内容とを適切に結び付けて書くことが容易になると考える。

以上のことから、おじいちゃんやおばあちゃんが小学生だった頃の学校や遊びの様子、おやつを調べて分かったことや思ったことを書くことは、本単元の目標を達成するのに適していると考えられる。

○ 児童観

本学級の児童は、構成メモを作成する際、事柄ごとに書こうとする内容を示すことはある程度できる。しかし、記述する際、構成メモに示した内容の関係があいまいであったりそれらをつなぐ言葉や文が十分でなかったりするため、書こうとすることの中心が明確になった文章を書くことができない児童が多い。

1学期に行った「心に残ったことを書こう」という生活作文を書く学習において、児童の書いた文章を分析すると、書こうとする事柄の中心となる段落の内容と原因や理由、事例を挙げる段落の内容とを適切に結び付けていない児童は26名中9名であった。また、段落と段落とをつなぐ言葉を適切に用いていない児童は26名中10名であった。

これらのことから、書こうとする事柄の中心となる段落の内容と原因や理由、事例を挙げる段落の内容とを適切に結び付けたり、それらをつなぐ言葉や文を適切に用いたりして記述する力は十分といえない。

○ 指導観

指導に当たっては、言語活動例「イ疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。」のうち、「報告する文章を書く」ことを通して指導するものとする。具体的には、学級の友達に対して、おじいちゃんやおばあちゃんが小学生だった頃の学校や遊びの様子、おやつを調べて分かったことや思ったことを報告する文章を書く言語活動を設定する。

文章の構成について確認するため、単元の導入段階において、「始め—中(調べたこと)—終わり」(冒頭部—展開部—終結部)という構成からなる文章を提示する。各部分に書く内容については、右に示す表を提示し指導する。

また、児童が文章を書く際、これまでに学習した接続語など段落と段落をつなぐ言葉や文を適切に用いることができるよう、一覧表を作成して提示する。

段落の関係について交流させる際には、書こうとする事柄の中心となる段落の内容と原因や理由、事例などを挙げる段落の内容とを適切に結び付けているか、段落と段落をつなぐ言葉や文を適切に用いているか、といった視点をもって交流するよう指示する。

児童に示す表

おわり	中 (調べたこと)	はじめ	書く内よう
・調べる活動を通して、分かったことや考えたり思ったりしたことを書く。	・書こうとするものの中心をはっきりさせるために、ひとつの事から(理由、れい)を書く。 ・ひとつの事ながら(理由、れい)がいくつかある場合や一つの事ながら長い場合には、内ようごとに分けて書く。	・調べること(問い)、調べることにした理由やきっかけ、調べ方を書く。	

5 単元の目標

- 調べたことを報告する文章のまとめ方に関心を持ち、書こうとするものの中心を明確にした文章を書こうとする。【国語への関心・意欲・態度】
- 調べたことを報告する文章において、書こうとするものの中心を明確にし、分かりやすく伝えるために原因や理由、事例を挙げて書くことができる。【B書くことウ】
- 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ク)】

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
調べたことを報告する文章のまとめ方に関心を持ち、書こうとするものの中心を明確にした文章を書こうとしている。	書こうとするものの中心となる、調べて分かったことや思ったことを内容とする段落に対して、原因や理由、事例などを挙げる段落を明確に位置付けている。	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使っている。

7 指導と評価の計画(全7時間)

次	学習活動(時数)	関			評 価	
		書	言	評価規準	評価方法	
一	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいちゃんやおばあちゃんが小学生だった頃の学校や遊びの様子、おやつについて調べ、学級の友達に報告することを知る。 ・報告する文章にまとめるまでの学習の見通しをもつ。 ・モデルとして提示した文章から、自分の文章に生かすことのできる文章の構成や表現の仕方を探し、ノートにまとめる。(1) 	○	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○報告する文章まとめ方について関心をもっている。 ◎自分の文章に生かすことのできる文章の構成や表現の仕方をまとめている。 	ノート 行動観察

二	・設定したテーマについて、収集した情報をカードに書く。(1)	○	○取材した内容から、自分の設定したテーマに対して必要な情報を取り出し、カードに書いている。	取材カード 行動観察
	・設定したテーマに基づいて、作成したカードを分類・整理し、書こうとすることの中心を決める。(1)	○	○書こうとすることの中心を明確にしている。	ワークシート
	・書こうとすることの中心が明確になるよう、段落相互の関係などに注意して文章の構成を考える。(1)	○	○書こうとすることの中心を明確にしている。	構成メモ
	・構成メモを基に文章を書く。(1)	◎ ○	◎段落相互の関係などに注意して、書こうとすることの中心を明確にしている。 ○指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を考えて使っている。	児童が書いた文章
	・書いた文章について検討し、再度、文章を書く。(1) 【本時 6/7】	◎ ○	◎書こうとする事柄の中心となる段落の内容と原因や理由、事例などを挙げる段落の内容とを適切に結び付けたり、それをつなぐ言葉や文を適切に用いたりして書いている。 ○指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を考えて使っている。	児童が書いた文章
三	・書いた文章を読み合い、感想を交流する。(1)	◎ ○	◎書こうとする事柄の中心となる段落の内容と原因や理由、事例などを挙げる段落の内容とを適切に結び付けたり、それをつなぐ言葉や文を適切に用いたりして書いているかについて、思ったり考えたりしたことを述べている。 ○書こうとすることの中心を明確にした文章を書くことに意欲をもっている。	ノート ワークシート 行動観察

8 本時の展開

(1) 本時の目標

書こうとする事柄の中心となる段落とそれを支える段落との関わりについて注意して書くことができる。

(2) 観点別評価規準

◎書こうとする事柄の中心となる段落の内容と原因や理由、事例などを挙げる段落の内容とを適切に結び付けたり、それをつなぐ言葉や文を適切に用いたりして書いている。 【書く能力】

○指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を考えて使っている。

【言語についての知識・理解・技能】

(3) 準備物

これまでに学習した接続語や文末表現などをまとめた一覧表と冊子、黄色の付箋紙（板書用と児童作業用）

(4) 学習の展開

	学習活動〈学習形態〉	指導上の留意事項 (○) 配慮を要する児童への手立て (◆)	評価規準	評価方法
導 入	1 本時の学習課題を知る。	○ 前時までの学習を想起させる。 ○ それぞれの児童が書いた文章を読み合い、よく書けている点や不十分な点について交流した後、書き直すことを伝える。		
	<p>二つのことに注意して書こう。</p> <p>① 中心となるだん落の内ようと理由や例をあげているだん落の内ようがピッタリとつながるようにする。</p> <p>② だん落とだん落とをつなぐ言葉や文を正しく使うようにする。</p>			
展 開	2 提示された文章について、書き手が分かったことや思ったことをより分かりやすく伝えるために、さらにどのような工夫をすればよいか考える。 〈一斉〉	○ 児童が発言した内容を板書用付箋紙に書き込み、付箋紙の書き方や貼り方について、例を示す。 ○ ①の視点については、書こうとする事柄の中心となる段落と原因や理由、事例などを挙げる段落に、同じ内容を意味する言葉が入っているかという視点から検討するよう助言する。 ○ ②の視点については、接続語や文末表現などをまとめた一覧表(掲示物)や冊子を参考にして検討するよう助言する。 ○ 提示する文章については、板書用と手持ち用を用意する。		
	<p>3 友達の文章を読み合い、交流する。 〈グループ〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">読み合う時に注意すること</div> <p>① 中心となるだん落の内ようと理由や例をあげているだん落の内ようがピッタリとつながっているか。</p> <p>② だん落とだん落とをつなぐ言葉や文を正しく使っているか。</p>	○ 交流するグループは、構成メモについて交流したグループを基本として、3人グループを作る。 ○ 学習課題の2点に関わって書きかえたらよいところを付箋紙に書き、該当の箇所に貼るよう指示する。 ○ 付箋紙に書き込む際、接続語や文末表現などをまとめた一覧表や冊子を参考にさせる。 ○ 付箋紙に書いた内容を基に、どのように書き直せばよいかについて、交流するよう指示する。 ◆ 前時に作成した構成メモから児童のつまづきを把握し、課題に応じて個別に助言する。		

	<p>4 交流で学んだことを基に，文章を書き直す。 〈個別〉</p>	<p>○ 文章を読み直し，どのように書けばよいか見通しをもつ時間を確保する。</p> <p>◆ 文章を書き直すことについて見通しがもてない児童には，付箋紙を基に，直したらよいところを助言する。</p> <p>◆ 書き直し方が分からない児童には，ワークシートや構成メモを再度見直すよう助言する。</p>	<p>◎ 書こうとする事柄の中心となる段落の内容と原因や理由，事例などを挙げる段落の内容を適切に結び付けたり，それをつなぐ言葉や文を適切に用いたりして書いている。</p> <p>○ 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を考えて使っている。</p>	<p>児童が書いた文章</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 本時の学習を振り返り，次時の学習課題を知る。</p>	<p>○ 本時の学習課題に基づいて，自分の文章で良くなったところをノートにまとめさせる。</p>		